

## テーシス形式の博士論文表紙見本

注意：

- ・ 製本はハードカバーの黒表紙で、文字は白文字、金文字または銀文字とする。
- ・ 提出後は題目（副題を含む）および本文の変更はできない。
- ・ 項目およびその順序はこの通りとし、フォント等のデザイン、フォーマットは自由とする。

# 神奈川歯科大学大学院歯学研究科 2013 年度 博 士 論 文

全角 2 文字分空白

和文タイトル

論文タイトル

神奈川歯科大学の多機能化と評価法

2013 年 8 月 20 日

大学院教授会（合否判定）  
の年月日を記入

氏 名

神奈川 一郎  
Ichiro Kanagawa

申請者氏名

- ・ アルファベットの場合は下に  
カタカナ名を併記する。

所 属

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

申請者の所属

咀嚼機能制御補綴学講座 注 1

顎口腔機能修復科学講座 クラウン・ブリッジ補綴学分野 注 2

30mm 空ける

注 1：課程博士（甲）で申請する場合  
注 2：課程以外（乙）で申請する場合  
いずれかを記載する

## テーシス形式の博士論文内表紙見本

注意：

- ・ 内表紙は黒文字とする。
- ・ 項目およびその順序はこの通りとし、フォント等のデザインおよびフォーマットは原則的に自由とする。

# 神奈川歯科大学大学院歯学研究科 2013 年度 博 士 論 文

## 神奈川歯科大学の多機能化と評価法

和文タイトル

大学院教授会（合否判定）  
の年月日を記入

2013 年 8 月 20 日

神奈川 一郎  
Ichiro Kanagawa

申請者氏名

- ・ アルファベットの場合は下にカタカナ名を併記する。

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

咀嚼機能制御補綴学講座 注 1

木本克彦教授 指導

申請者の所属と指導教授名を併記する。

顎口腔機能修復科学講座クラウン・ブリッジ補綴学分野 注 2

木本克彦教授 指導

基となる論文がある場合記載する。

このテーシスは、木本克彦，神奈川太郎．神奈川歯科大学咀嚼機能制御補綴学講座の現状解析．神奈川歯学 100：1-12，2065．を基に新たなデータを加えたものである。

注 1：課程博士（甲）で申請する場合

注 2：課程以外（乙）で申請する場合

いずれかを記載する

論文内容要旨 (明朝体 12 ポイント、シングルスペース 35 文字×40 行程度)

論文審査要旨

本審査委員会は申請者が博士 (歯学) の学位に十分値するものと認めた。

2013 年 8 月 20 日 ← 大学院教授会 (合否判定)  
主 査 : の年月日を記入  
副 査 :  
副 査 :

## 博士論文背表紙見本

注意：

- ・ このフォーマットに従うこと.
- ・ フォントはゴシック体 (bold face) とする.
- ・ フォントサイズは適宜決めてよい.
- ・ 白、金あるいは銀文字とする

35mm 空ける

全角 1 文字分空白

全角 2 文字分空白

2013年度  
博士論文

神奈川歯科大学の多機能化と評価法の研究

所 属

氏 名

30mm 空ける

咀嚼機能制御補綴学講座  
神奈川  
一郎

## 目 次 (必須ではない)

|               |    |
|---------------|----|
| 諸 言           | 1  |
| 実験材料（対象）および方法 | 10 |
| 結 果           | 20 |
| 考 察           | 30 |
| 結 論           | 40 |
| 謝 辞           | 41 |
| 文 献           | 42 |
| 表および図         |    |
| 表 1           | 50 |
| 表 2           | 51 |
| 図 1           | 52 |
| 図 2           | 53 |

本文

本文から通しページを付ける

諸言 (明朝体、12 ポイント、ダブルスペース、35 文字×20 行程度)

実験材料 (対象) および方法

結果

考察

結論

謝 辞

文 献（神奈川歯学の記載法に準じる。）

★ 図と表は原則 1 ページにつき一組（例：図が a, b, c の 3 枚あるような場合は同じページに配置する）とする。

★ 説明は全て図および表中に記載する。

表 1

50 ← 図、表のページ番号

-----改ページ-----

表 2

51

-----改ページ-----

図 1

52

-----改ページ-----

図 2

53